

-----  
◇◆ほっかいどう防災教育協働ネットワーク◆◇

～メールマガジン第 22 号（平成 28 年 4 月 25 日発行）～  
-----

\*\*\*\*\*

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◆ I N D E X ◆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

【1】トピックス

- ・平成 28 年熊本地震について
- ・避難所運営ゲーム（HUG）北海道版（D o はぐ）が完成しました！

【2】 イベントピックアップ

【江別市】「災害対応ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」

【札幌市】北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 調査研究成果発表会

- ・5 月 10 日は地質の日

【3】日本全国！ぼうさいの取組紹介！

【一般財団法人消防防災科学センター】消防防災博物館

【4】お知らせ

- ・協働プロジェクトのアイデアを募集します

【5】ネットワークへようこそ！

- ・4 月 25 日（月）現在 90（30 個人・60 団体）
- ・横顔紹介：北海道大学大学院工学研究院・森太郎准教授

\*\*\*\*\*

【1】トピックス

■平成 28 年熊本地震について

このたびの地震で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申しあげますとともに、被災された皆様方に心からお見舞い申しあげます。

- 「平成 28 年熊本地震」に関する道からのお知らせ

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/kumamoto\\_earthquake.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/kumamoto_earthquake.htm)

■避難所運営ゲーム（HUG）北海道版（D o はぐ）が完成しました！

協働ネットワークのプロジェクトとして、約一年間かけて内容の検討を進めてきた避難所運営ゲーム（HUG）北海道版（D o はぐ）が、ついに完成し、4 月 17 日（日）に北海道庁赤れんが庁舎で完成発表会を兼ねた研修会を実施しました。その模様は新聞やテレビでも報道されましたので、目にされた方も多いと思います。

「D o はぐ」は、北海道で真冬に直下型地震が発生したとの想定での避難所運営が疑似体験できる防災教育教材です。1 セットにつき 250 枚のカードが 6 組入っており、取扱説明書と講師説明用パワーポイント入り CD-ROM、そして主なカードの考え方を示した北海道版オリジナルの解説書が付いています。

販売はしませんが、道では本庁危機対策課と各（総合）振興局で4月18日より貸出を開始しています。

貸出手続きについては道の防災教育ポータルサイトに掲載しておりますので、こちらをご確認いただくか、道危機対策課・防災グループに電話又はメールでお問い合わせ下さい。

ポータルサイト：<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/news/>

電話番号：011-204-5008

メールアドレス：somu.bosai@pref.hokkaido.lg.jp

\*\*\*\*\*

## 【2】 イベントピックアップ

5月の防災イベントを紹介！

■5月15日（日）に江別市民会館において、「災害対応ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」というイベントが開催されます。

このイベントでは、「クロスロード」という災害対応ゲームを体験してもらいます。クロスロード（Crossroad）とは、「岐路」、「分かれ道」のことであり、転じて、重要な選択・決断場面を意味します。参加者は7人程のグループに分かれ、防災に関わる質問（正解はない）に対して、Yes又はNoで回答します。多数意見だった人にポイントが入るルールですが、1人だけ異なる意見だった場合、誰も気づかなかった点に注意を向けたとして、高いポイントがもらえるなど、楽しみながら防災について学べます。

参加者一人一人が自分だったらどうするかを考え、選択・決断し、さらにはグループ内の意見を聞くことで、防災の問題を自分事としてとらえ、立場や家庭環境などにより考え方に違いがあることなどに気づくことができます。

今回のイベントは、江別市民の方が対象になります。なお、道庁では、「クロスロード」の貸出を行っておりますので、希望される方は、011-204-5008にお問い合わせください。

■5月19日（木）・20日（金）に北海道総合研究プラザ（札幌市北区）で北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部の調査研究成果発表会が開催されます。

19日は地質研究所の発表となり、「津波堆積物の認定手法に関する研究」や「音響調査により屈斜路湖で確認された湖底地すべり活動」などの発表が予定されています。

参加申込みにつきましては、近日、下記のホームページで案内される予定ですので、興味のある方は、ぜひお申し込みください。

[https://www.hro.or.jp/info\\_headquarters/event/event/index.html](https://www.hro.or.jp/info_headquarters/event/event/index.html)

■5月10日（火）は「地質の日」です。

5月10日は、明治9年に日本で初めて広域的な地質図が作成された日です。また、明治11年のこの日は、地質の調査を扱う国の組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあります。

地質とは、大地の性質のことで、構造物の建設や廃棄物処理などの環境面で重要な役割を果たしています。一方で、地質は地震や火山噴火などによって大きな災害をもたらすこともあります。

このように地質は、人間社会と深く関わっていますが、その重要性は、一般の方にはあまり知られていません。

地質の日は、この地質への理解を推進する日として制定されました。この日を記念して、全国で様々なイベントが開催されます。道内では札幌市資料館で「北海道のジオパーク-地球の営みを体感する-」（4/26～6/5）展示のほか、市民地質巡検や市民セミナーも予定されています。

下記のホームページでは、各地で開催されるイベントが地域ごとに掲載されていますので、ぜひ足を運んでみてください。

<https://www.gs.j.jp/geologyday/2016/index.html>

■その他のイベント情報はこちらから

- ・ネットワークイベントカレンダー（平成28年4月～平成29年3月）

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/network/>

\*\*\*\*\*

【3】日本全国！ぼうさいの取組紹介！

日本全国に視点を広げ、特色のある防災の取組を紹介します！  
皆さんが行う防災の取組の参考となれば幸いです。

今回は、消防防災に関するサイトを紹介します。

【一般財団法人消防防災科学センター】消防防災博物館

消防防災に関する情報や資料を展示した、1年365日運営のインターネット上の博物館です。

「見て学ぶ」、「調べる」、「東日本大震災」、「防災展示場」、「こどものひろば」、「イベント・掲示板」の6つのテーマ別に分かれており、災害対策の参考になる動画資料、防災グッズや備蓄用品、各地で開催されるイベントなどの情報が満載です。

「災害について学べる 防災スゴロク」など、防災について楽しく学べるコンテンツが満載です。ホームページアドレスは、下記になりますので、ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.bousaihaku.com/>

\*\*\*\*\*

【4】お知らせ

- 協働プロジェクトのアイデアを募集します

今年の6月で3年目に突入する本ネットワークですが、事務局では、防災教育を一層推進していくためにはネットワークの構成員の皆様が北海道の防災について考えていること、思っていることをネットワーク全体で共有し、議論していくことが大切と考えています。

このため、実現性の可否を問わず、ネットワークの皆さんに「協働プロジェクトとしてこんなことをやってみたい」というアイデアを募集しようと考えております。

5月の連休明けに、改めて皆様に「ご意見募集」のご案内をいたしますが、さまざまな防災教育の「種」それぞれに、育ててみようかと賛同する構成員が集い、数多くの実のある取組につながっていくことを期待するものです。たくさんのアイデアのご提供をよろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

#### 【5】ネットワークへようこそ！

4月25日（月）現在のネットワーク構成員数は、90（30個人・60団体）です。

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/network/>

このコーナーでは、参画いただいている皆様の横顔を順次、ご紹介していきます。

#### 【北海道大学大学院工学研究院・森太郎准教授】

森准教授は建築環境学を専門とし、環境に配慮した健康で安全な室内環境の実現のための研究を進める一方、北海道HUG研究会代表として道内各地で避難所運営ゲームを活用した防災教育に取り組み、このたび完成したD oはぐについても協働プロジェクトの構成員として内容の検討に深く関わっていただきました。

森准教授の防災への関わりは、前任の釧路高専での避難訓練の内容の改善のために、ワークショップを考えたことが始まりです。その後、道立総合研究機構に在籍していた南慎一氏より「避難所の室内環境を考えてみないか」との誘いで、帯広市の厳冬期防災訓練に参加。その際に見かけたHUGに北海道的な要素をアレンジしたいと考えました。そして南氏を中心に結成された「HUG北海道研究会」に参加し、その活動が北海道版（D oはぐ）の検討へとつながりました。

D oはぐの今後について森准教授は、単に実施するだけに終わらず、その結果を用いて、一緒に実施した方たちと地域の防災力の向上について議論し、実際の行動へとつなげてほしいと願っています。

\*\*\*\*\*

#### 【編集後記】

4月になり担当者が替わった機関もあるかと思いますが、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今月 17 日に道庁赤レンガ庁舎において避難所運営ゲーム北海道版（D o はぐ）のお披露目を兼ねた研修会を実施し、貸出も開始したところですが、熊本・大分両県を中心とした地震においては、避難所における課題が取り上げられているところです。そのひとつにエコノミークラス症候群がありますが、段ボールをつなげて作ったベッドを活用することで寒さを防げるほか、立ち上がりやすくなるため、トイレなどに行きやすくなり、エコノミークラス症候群の予防につながるといいます。さらに、この段ボールベッドは貴重品などの収納スペースにもなり、避難所から出る時には、（本来の用途どおり？）荷物を入れて引っ越し用として使えるとか。段ボールベッドの有用性は、今年 1 月に日本赤十字北海道看護大が主催した「厳冬期災害演習」でも確認されています。

段ボールの汎用性を感じつつ、「D o はぐ」を通じて、避難所の運営方法について平常時から考え、準備しておくことが大切だと改めて認識しているところです。(M.F)

=====

発行：ほっかいどう防災教育協働ネットワーク事務局

（北海道総務部危機対策局危機対策課）

- ・最新情報発信中！フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」

<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>

- ・ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>